

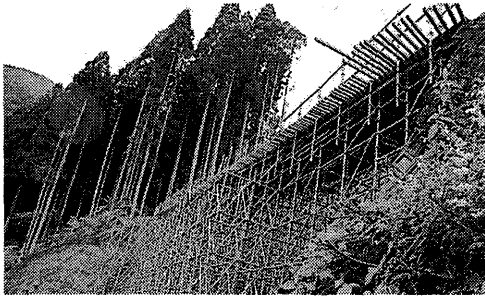
建通新聞

日綜産業

法面8号が威力発揮、村民は感謝

日綜産業(本社・東京都中央区)は5日、同社の法面8号機械構台システム足場(NETIS 登録番号KT-060089-V、少実績優良技術)が採用されている奈良県十津川村の村道応急復旧工事現場を公開し、現場見学会を開催した。

法面8号による村道の応急復旧工事現場



十津川村は、昨年9月の台風12号による災害

奈良県十津川村の村道 応急復旧工事現場見学会

で大きな被害を受け、現在も村内各所でその痕跡が残っている。公開した現場は、このうち沼田原地区での村道沼田原線応急復旧工事(発注者・十津川村、施工者・栗原組)。村道沼田原線は、台風12号による土砂災害により、幅員3m程度の村道が延長約40m崩壊。村道を唯一の生活道路としている5世帯、11人が孤立した。被災者は復旧完了まで仮設住宅などへ移住することとなったが、自宅へ行くためには、山道を徒歩で登るしか方法はなく、家財道具などの運び出しが困難になっていた。復旧工事を担当する十津川村役場建設課の梶嶋努技師は「せめて乗用車が通れるようにできないかと考えていたところに提案があり、村として応急

復旧として採用を決めた」と話す。

現場では、法面8号を約45t採用し、上部を幅員3mの仮設道として利用できる状態にした。1月末から組み立てを開始し、途中には積雪による中断もあったが、1カ月程度で組み立てが完了。本復旧工事は早ければ6月に発注される予定で、本復旧工事期間中は通行止めとなるが、それまでの間に車で家財道具を運び出すことができるため、近隣の住民は非常に感謝しているとのこと。

法面8号は、①ハンマー一本で組み立て・解体が可能②組み立て後の削孔機などの振動によるくさびの緩みがない③アンジュレーションの多い場所でも容易に対応④各部材は最小限の大きさで人手による運搬が可能—などの特徴がある。

日綜産業では「今後も災害復旧工事に対する当社製品の役に立つことができれば」と話している。

日刊建設産業新聞

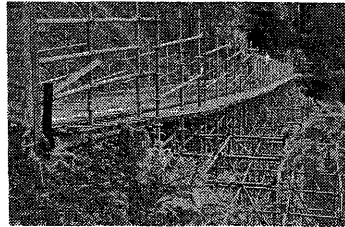
発行所

日刊建設産業新聞社

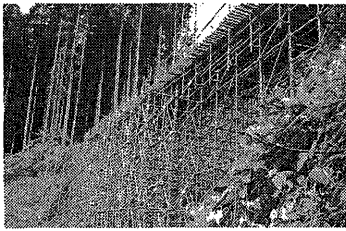
本社 東京都板橋区板橋1-48-9
 〒173-8710 電話 03(3961)1691(代表)
 ファックス 03(3961)2251
 (http://www.kensan-news.com/)
 支社
 大阪、神奈川、九州、中国、東北、甲信越
 支局
 埼玉、中部、神戸、岡山
 © 日刊建設産業新聞社 2012

日綜産業は5日、昨年9月に奈良・和歌山・三重の3県に大きな被害をもたらした台風12号による土砂災害復旧工事の一部で、奈良県十津川村の沼田原地区村道応急工事(発注者||十津川村役場、施工||栗原組)に採用された「安全足場支保工・法面8号(45シ)機械構台システム足場」現場を、建設専門紙関係者に紹介するため現場見学会を開催した。

現場は、同地区の集落へ向かう唯一の道が40㍎に渡って崩れ、住民は仮設住宅に住みながら、家に戻る時は徒歩で大回りの山を越える迂回路を通らないと



替えが楽にでき、豊富な種類の部材を揃えることにより、現場規模を選ぶこと無く作業ができ、最小限に各部材のサイズを抑えることで、狭い場所での人手による運搬も可能。また、組立後の削孔機な



日綜産業は5日、昨年9月に奈良・和歌山・三重の3県に大きな被害をもたらした台風12号による土砂災害復旧工事の一部で、奈良県十津川村の沼田原地区村道応急工事(発注者||十津川村役場、施工||栗原組)に採用された「安全足場支保工・法面8号(45シ)機械構台システム足場」現場を、建設専門紙関係者に紹介するため現場見学会を開催した。

帰れない状況だった。そうした寸断された道路をとりあえず通れるようにするために同社の法面8号(45シ)を採用。今年1月末からの組み立てで、途中は雪で工事がストップする

など障害もあったものの3月には無事完成させた。法面8号機械構台システム足場は、ハンマー一本で組立・解体ができるうえ、システム式なので、構台の盛り

ど振動によるクサビの緩みも無く、起伏の多い場所も安易に対応でき、ドブメッキ仕上げなので防錆性にすぐれているのが特徴。沼田原地区村道応急工事は、奈良県十津川

豪雨災害復旧で法面8号が活躍

十津川村沼田原地区村道応急工事

日綜産業

村役場が発注。工事場所以は十津川村沼田原地区で、延長47㍎、幅員3㍎。工期1月末〜3月。十津川村役場建設課技士の梶嶋努は、「現状、仮設道は有りませんが徒歩での移動と限定される中、大きな荷物の移動ができず、村で業者さんとの相談の結果、支保工材を使ったらとアドバイスを頂き、日綜産業の法面8号を使い仮設道を敷いた。また使用する上で生活道としての使い方も可能と返事を貰った。現在道路が完成し、住民の方からも『ありがとう』との声も頂き、村としても工事をして良かった」と話す。

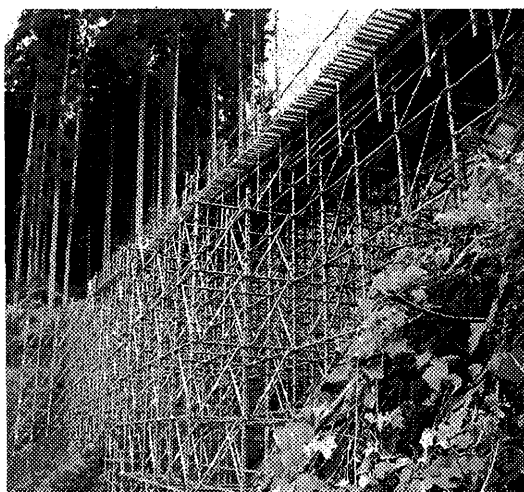
建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2012年(平成24年)6月7日(木曜日)

(第三種郵便物認可)

孤立集落のアクセス担う



沼田原地区の仮設林道

紀伊半島大水害・十津川村で活用

昨年9月、台風12号の豪雨で死者・行方不明者84人など甚大な被害が発生した紀伊半島大水害。このうち奈良県十津川村では、死者・行方不明者12人を出した。災害の爪痕は、9カ月を経た現在も村内の随所に生々しく残り、各所で復旧工事が急ピッチ行われている。

「豪雨で生活道路の村道も随所で崩壊、崩落した。北部に位

日綜産業の「法面8号」

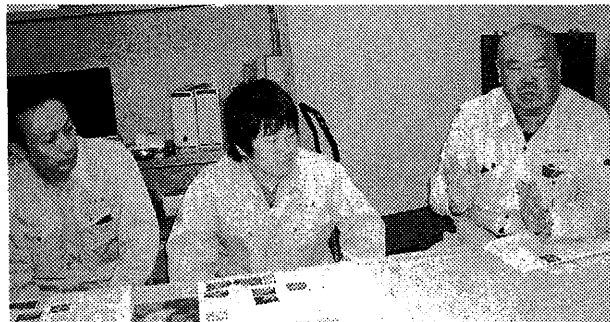
置する沼田原地区でも崩落、1集落の5世帯11人が一時孤立した。その後、住民は仮設住宅に避難しながら、自宅に戻る時は徒歩で険しい山道を越えなければならなかった」

十津川村建設課の梶嶋努技師、奈良県五條土木事務所から復旧支援のため出向の池田晃土主事、大和郡山市上下水道部から支援出向する上村之宏氏は村

道の状況を説明する。

このため十津川村では、沼田原地区村道応急工事を発注。「山腹の長さ約40分に渡って斜面崩落、寸断された村道を、シテム足場を利用することで当面通れるよう復旧した」。人が利用する仮設橋(幅3.5m)だが、乗用車1台に限り通行を認めている。工事は栗原組が施工、日綜産業の機械構台システム足場「NISSO法面8号」が約45ト採用された。

急峻な山岳地の奈良県、和歌山県では斜面崩壊などの復旧工事が2012年度から本格化する。



被災状況を説明する(左から)上村、池田、梶嶋氏

日綜産業大阪支店法面推進担当の吉田貢チーム長は「ことし1月末から組み立てた。途中、積雪で工事がストップしたこともあったが、3月には無事完成した。住民の方々から感謝していただき、当社の製品が生活道路の復旧にも役立った」と語る。